

第2回 平成22年05月20日(木)

第2回の一流塾は、講師に堀新太郎氏(ベイン・キャピタル・ジャパン会長)、福川伸次氏(一流塾特別顧問、(財)機械産業記念事業財団会長、元通産省事務次官)をお迎えしました。



堀氏は、『なぜ日本企業は未曾有のチャンスを活かせないのか?』と題し、最近ブームとなっているP・F・ドラッカーの理論を切り口に、多くの日本企業が抱える問題点に関する分析をご披露頂きました。また、近年の経済危機は未曾有のチャンスの時でもあり、日本企業にはチャンスを活かす潜在的な力があるにも関わらず、それを活かすことが出来ない理由について、ベイン・キャピタルにおける豊富な経験を踏まえて解説頂きました。講義後には、競争優位性に関する判断基準や、オーナー型企業におけるオーナーの役割等に関する活発な質疑が行われました。

福川氏は、『変容する世界と日本の進路 - 問われるガバナンスカ -』と題し、国際的な政治・経済構造の変化と日本の国際的な地位の低下について鋭い分析を行い、これらの状況を踏まえて日本の企業経営者は何を考えなければならないのか?について持論をご披露頂きました。政治・経済・文化を横断した鋭い分析に、塾生からは「視点の広さ、知識の幅広さに感銘を受けた」、「“ガバナンスカ、人間力が低下している”、という言葉にはっとさせられた」といった声が寄せられました。



講義後の懇親会では、特別ゲストに岸本周平氏(衆議院議員、元財務省、経産省課長)をお迎えしました。岸本氏は一柳の経産省の後輩で、衆議院議員を目指した経緯や熱い思い、当選までのご苦労、民主党の政策等について卓話を頂きました。その後の質疑応答や懇親の席では、民主党の政策に関して自由闊達な議論が行われ、大変盛り上がりました。